

事例番号:320116

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第七部会

### 1. 事例の概要

#### 1) 妊産婦等に関する情報

初産婦

#### 2) 今回の妊娠経過

妊娠 33 週 6 日 頻脈、動機、目の前が暗くなる等の症状あり

妊娠 34 週 2 日

9:29- 体調不良、頻脈、動機を訴え A 医療機関を受診し、その後帰宅

#### 3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 34 週 2 日

15:18 嘔気、呼吸困難が増悪し救急要請

15:32 心肺停止

16:16 死戦期帝王切開、静脈-動脈体外式腹型人工心肺装置目的で当該  
分娩機関に入院

#### 4) 分娩経過

妊娠 34 週 2 日

16:18 超音波断層法で胎児心拍を確認できず

16:22 帝王切開により児娩出

手術当日 胸腹部 CT で肺塞栓症の所見

#### 5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:34 週 2 日

(2) 出生時体重:2200g 台

(3) 臍帯動脈血ガス分析:実施なし

(4) アプガースコア:生後 1 分 0 点、生後 5 分 0 点

(5) 新生児蘇生：人工呼吸（バッグ・マスク）、気管挿管、胸骨圧迫、アドレナリン注射液投与

(6) 診断等：

出生当日 重症新生児仮死、低酸素性虚血性脳症

(7) 頭部画像所見：

生後 15 日 頭部 MRI で多嚢胞性脳軟化症の所見を認める

## 6) 診療体制等に関する情報

### <A 医療機関>

(1) 施設区分：診療所

(2) 関わった医療スタッフの数

医師：産科医 2 名

看護スタッフ：助産師 2 名、看護師 1 名、准看護師 1 名

### <当該分娩機関>

(1) 施設区分：病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師：産科医 4 名、小児科医 2 名、麻酔科医 7 名

看護スタッフ：看護師 4 名

## 2. 脳性麻痺発症の原因

(1) 脳性麻痺発症の原因は、出生前に生じた胎児低酸素・酸血症により低酸素性虚血性脳症を発症したことであると考ええる。

(2) 胎児低酸素・酸血症の原因は、肺塞栓症による妊産婦の呼吸循環障害によって子宮胎盤循環不全が起こったことであると考ええる。

(3) 胎児は、妊娠 34 週 2 日の 15 時 18 分頃より低酸素の状態となり、その状態が急激に進行し胎児低酸素・酸血症に至ったと考ええる。

## 3. 臨床経過に関する医学的評価

### 1) 妊娠経過

(1) A 医療機関における妊娠中の管理は一般的である。

(2) 妊娠 34 週 2 日に体調が悪く頻脈、動悸ありと訴えて受診した妊産婦に対

し、分娩監視装置を装着し、母体の自覚症状の改善を確認したことは一般的である。

## 2) 分娩経過

(1) 当該分娩機関における妊産婦の心肺停止に対する対応(胸骨圧迫、アドレナリン注射液投与、心肺停止の適応で帝王切開決定、超音波断層法による胎児心拍数の確認)、および入院から6分後に児を娩出したことは、いずれも適確である。

(2) 胎盤病理組織学検査を実施したことは適確である。

## 3) 新生児経過

新生児蘇生(「原因分析に係る質問事項および回答書」によるとバッグ・マスクによる人工呼吸、気管挿管、胸骨圧迫、アドレナリン注射液投与)は一般的である。

## 4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

### 1) A 医療機関および当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

#### (1) A 医療機関

なし。

#### (2) 当該分娩機関

なし。

### 2) A 医療機関および当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

#### (1) A 医療機関

なし。

#### (2) 当該分娩機関

なし。

### 3) わが国における産科医療について検討すべき事項

#### (1) 学会・職能団体に対して

妊産婦に発症する肺塞栓症の事例を集積し、早期発見と対処のための方法が確立されることが望まれる。

#### (2) 国・地方自治体に対して

妊産婦に発症し救急隊が遭遇する可能性のある救急事例(病院前産科救

急)につき、救急隊員や救命救急医が対応訓練を行う機会を充実させることが望まれる。